

ふりがな

くぼ のりあき

氏名

久保 明教

1. 学歴

- 2003年3月 大阪大学人間科学部卒業
2004年4月 大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程入学
2006年3月 大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程修了
2006年4月 大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程進学
2010年3月 大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程単位取得退学
2010年4月 東京大学大学院総合文化研究科（日本学術振興会特別研究員 PD）

2. 職歴・研究歴

- 2013年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ジュニア・フェロー
2014年4月 一橋大学大学院社会学研究科・専任講師
2016年4月～ 一橋大学大学院社会学研究科・准教授

3. 学内教育活動

（A）主な担当講義名

（a）学部学生向け

人類学概論、社会人類学総論A、現代人類学A、周辺状況の諸問題A、エスノグラフィA

（b）大学院

社会人類学I/II、民族誌論

（B）ゼミナール

学部3年/4年、大学院演習

4. 主な研究テーマ

研究全体のテーマは「人類にとってテクノロジーとはいかなるものであり、いかなるものでありうるのか」を明らかにすること。具体的な研究対象としては、エンターテインメントロボット「AIBO」の開発と受容の過程、ロボットをめぐる工学・計算機科学およびマンガ・アニメ表現の軌跡、現代将棋における棋士と将棋ソフトの相互作用、家庭料理史における技術と倫理の共生成過程、20世紀末以降の人類学的方法論の変遷など。

5. 研究活動

A. 業績

（a）著書・編著

久保明教 『家庭料理という戦場——暮らしはデザインできるか？』コトニ社、2020年、213頁。

久保明教 『ブルーノ・ラトゥールの取説 アクターネットワーク論から存在様態探求へ』月曜社、2019年、272頁。

- 久保明教 「存在論的相対化—現代将棋における機械と人間」 床呂郁哉・河合香吏編『ものの人類学2』京都大学出版会、2019年、第三章) [分担執筆]
- 久保明教 2018『機械カニバリズム 人間なきあとの人類学へ』講談社、2018年9月12日、224頁
- 久保明教 2016「記号の離床：将棋電王戦にみる人間と機械のアナログカルな相互作用」『科学と文化をつなぐ—アナロジーという思考様式』236-253頁、東京大学出版会。2016年3月
- 久保明教 『ロボットの人類学—二〇世紀日本の機械と人間』世界思想社、2015年3月2日、258頁。
- 久保明教 「野生のロボット——計算機科学と人間科学における規則、解釈、バグをめぐる試論」 檜垣立哉編『ロボット・身体・テクノロジー——バイオサイエンスの時代における人間の未来』78-95頁、大阪大学出版会、2013年3月28日。[分担執筆]
- 久保明教 「世界を制作＝認識する：ブルーノ・ラトゥール×アルフレッド・ジェル」 春日直樹編『現実批判の人類学——新世代のエスノグラフィへ』34-53頁、世界思想社、2011年11月30日。[分担執筆]
- 久保明教 「機械の時間——テクノロジーにおける「新しさ」をめぐる」 西井涼子編『時間の人類学——情動・自然・社会空間』158-181頁、世界思想社、2011年4月16日。[分担執筆]
- 久保明教 「<機械—人間>というイマージュ——生政治学と計算機科学における自己の編成」 檜垣立哉編『生権力論の現在——フーコーから現代を読む』47-90頁、勁草書房、2011年2月9日。[分担執筆]
- 久保明教 「ロボット——人間であって人間でないもの」 春日直樹編『人類学で世界をみる』127-145頁、ミネルヴァ書房、2008年8月。[分担執筆]

(b) 論文

- 久保明教 2019「呪術と科学——私たちは世界といかにかかわっているのか」『文化人類学の思考法』松村圭一郎・中川理・石井美保(編)、44-55頁、世界思想社、2019年4月30日刊行。
- 久保明教 2018「他性の現在『ポケモン』と標準的媒体をめぐる」『文化人類学研究』第19巻、45-68頁、現代文化人類学会 [査読あり]。2018年12月30日発行、ISBN 978-4-86209-072-0
- 久保明教 2016「方法論的独他論の現在——否定形の関係論へ」『現代思想』44(5): 190-201頁、青土社。2016年2月1日
- 久保明教 2016「非人間への生成——非連続的思弁と連続的実践の狭間で」『現代思想』44(20): 194-209、青土社。2016年11月28日
- 久保明教 2015「対称性人類学からみる現代スポーツの主体——将棋電王戦をめぐる考察」『スポーツ社会学研究』23(1): 19-33
- 久保明教 2015「知能機械の人類学——アクターネットワーク論の限界を超えて」『現代思想』43(18): 88-99、青土社 2015年11月27日
- 久保明教 2014「人間と機械の不調和に満ちた未来に向けて——将棋電王戦から考える」『人工知能』(人工知能学会誌) 29(5): 482-488、日本人工知能学会。2014年9月。
- Kubo Akinori 2013 Plastic Comparison: The Case of Engineering and Living with Pet Type Robots in Japan. East Asian Science, Technology and Society: an International Journal, 7(2): 205-220, Duke University Press. *
- 里見龍樹・久保明教 「身体の産出、概念の延長——マリリン・ストラザーンにおけるメラネシア、民族誌、生殖技術をめぐって」『思想』1066号(2013年第2号)、264-282頁、岩波書店、2013年2月。
- 久保明教 「人類学機械と民族誌機械——ガタリ記号論からみる現代人類学の展開」『現代思想』vol. 41-8(2013年6月号)、172-183頁、青土社、2013年5月。
- 久保明教 「機械人間は二度あらわれる——まんが・アニメ的リアリズムにおける『人間』の記号論(研究ノート) 日本記号学会編『いのちとからだのコミュニケーション——医療と記号学の対話(新記号論叢書 [セミオトポス] 6)』180-195頁、慶応義塾大学出版会、2011年5月

- 久保明教「文化をのりこなす——インド南部/バンガロールにおける IT ワーカーの人類学的分析をめぐる試論」
 (研究ノート)『文化人類学』77 巻 3 号、456-468 頁、2012 年 12 月*
- 久保明教「レヴィ=ストロース×スペルベルの象徴表現論——コード化モデルを超えて」『年報人間科学』29(1):
 39-56、2008 年、大阪大学大学院人間科学研究科*
- 久保明教「媒介としてのテクノロジー——エンターテインメント・ロボット『アイボ』の開発と受容の過程から」『文化人類学』71 巻 4 号、518-539 頁、2007 年 3 月*
- 久保明教「John Law, Aircraft Stories: Decentering the Object in Technoscience」(書評論文)、『年報人間科学』第 26
 号、325-330 頁、2005 年、大阪大学大学院人間科学研究科*

B. 本研究科着任後の研究活動 (着任 2014 年)

(a) 国内外学会発表

- 久保明教「ゲームをプレイするとは何か? 将棋電王戦を戦うものたちをめぐる」第 26 回計測自動制御学会
 SI 部門共創システム部会研究会・第 9 回内部観測研究会 (共同開催)、早稲田大学西早稲田キャンパス 5
 5号館、2015 年 2 月 28 日。
- Kubo Akinori "Relations in Negative Terms: Ontological relativizing in Japanese-chess matches between humans and
 computers" presentation in the biennial meeting of the Society for Cultural Anthropology (SCA), 2016/5/13 at Cornell
 university, Ithaca, New York.
- 久保明教 2016「現代将棋における棋士とソフトの相互作用をめぐる——存在論的相対化と否定型のアナロジ
 ー」第 15 回科学技術社会論学会年次研究大会、北海道・札幌市、北海道大学、2016 年 11 月 5 日「人
 工知能が浸透する社会を考える ワークショップ 2016」分科会発表
- 久保明教 2018「パケットの中の他性——『ポケモン』と外部なき世界の人類学」早稲田文化人類学会公開シン
 ポジウム『超—人類学 この時代を生きるために』、2018 年 1 月 20 日、早稲田大学 (東京都新宿区)
- 久保明教 2018「『手作り』という幻想: 家庭料理のネットワーク論」日本記号学会第 38 回大会、(名古屋大学、
 2018 年 5 月 19 日)

(b) 国内研究プロジェクト

- 基盤研究 A「重層化する不確実性へのレジリエンス: 水産物サプライチェーン研究の課題と実践」(2019-2023
 年度、研究分担者)
- 基盤研究 B「AI とロボットの社会受容におけるテクノアニミズム概念の有効性の検討と国際比較」(2019-2022
 年度、研究分担者)
- 基盤研究 C「哲学と人類学との新たな交錯」(研究分担者、2019-2021 年度)
- 挑戦的研究「AI 霊長類学者の誕生を目指した行動観察システムの確立」(研究分担者、2019-2020 年度)
- 挑戦的研究「科学的・文化的ネットワークにおいて抽象的観念が果たす役割の解明」(研究代表者、2016-2018
 年度)
- 挑戦的萌芽研究「暮らしの哲学: 生権力論を起点とした現代生活の総体的把握とミクロ分析」(研究分担者、2014
 -2016 年度)
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究プロジェクト「「もの」の人類学的研究(2) (人間/
 非人間のダイナミクス)」(代表・床呂郁哉、2014 年~2016 年度)
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究プロジェクト「思考様式および実践としての現代科
 学とローカルな諸社会との接合の在り方」(代表・春日直樹、2012 年~2014 年度) 共同研究員。
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究プロジェクト「社会空間論の再検討——時間的視座

から」(代表・西井涼子、2007年～2009年度)共同研究員。
大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」プロジェクト研究「『コンフリクト』を再理解する理論的・方法論的な研究」(代表・春日直樹 2007～2009年度)共同研究員。

C. 受賞

第3回日本文化人類学会奨励賞(2008年6月1日)

6. 学内行政

(B) 学内委員会

入学試験実施専門委員(2020年～)

ITイントラネット委員会(2015年?～)

入試幹事

7. 学外活動

(a) 他大学非常勤講師など

2015～2016年 慶應義塾大学文学部・非常勤講師

2015～2017年 筑波大学人文・文化学群・非常勤講師

2019年 大阪大学・人間科学部・非常勤講師

(b) 所属学会および学術活動

文化人類学会(『文化人類学』編集委員二期 2016～2020年)

(c) 公開講座・市民講座

一橋大学社会学部連続市民講座(2016年)

KUNILABO 公開講座「人類にとって文化とは何か? : レヴィ=ストロース再考」(2018年)

(d) 高校生向け出張講義・模擬講義

両国高校出張講義(2016年)

(e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

経済同友会・新産業革命と社会的インパクト委員会講演「『コンピュータとの共存共栄』とは何か?

現代将棋におけるソフトの影響をめぐって」(2016年)

九州経済調査会未来セミナー講演「文化人類学からみた人間とAI・ロボットの近未来」(2017年)

9. 一般的言論活動

毎日新聞 2020年8月29日大阪夕刊「人類学の扉を開けて／下 AIを鏡に「人間」を問い直す」